

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072900329		
法人名	有限会社風のふく丘		
事業所名	グループホーム 風のふく丘		
所在地 (電話番号)	福岡県小郡市吹上 694番地 1 (電話) 0942-72-1830		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成19年11月2日	評価確定日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(19年10月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 10月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤	12人、非常勤 2人、常勤換算 4.4 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / 改築
建物構造	木造造り	
	2階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (90,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月11日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	0名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.25 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院 筑紫野歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅と田園に囲まれた静かな環境にホームは建っており、周りの環境に溶け込んでいる。建物の造りは和風の温かみがあり、木の温もりが感じられる。その中で生活している利用者の穏やかで明るい笑顔が印象的である。法人内には3つのホームがあり、風のふく丘 と他の2つのホームで連携を図り、職員同士での研修や欠員の補充等を行い、職員が働きやすい体制をとっている。3つのホームの状況や利用者の状態の把握ができており、スムーズに業務を行っている。また、管理者の温厚な人柄が職員、利用者に反映され、お互いが楽しく明るく生活している様子が窺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員、それぞれに取り組みができており、概ね改善されている。契約書は追加事項を表記して見直しを図っている。小郡市との関係は運営推進会議やその他にて情報交換を行い、地域での役割を担っている。葉や室内湿度に関しては管理者、職員で検討し、薬台帳を作り、湿度計も即設置し全員で確認している。避難訓練等に於いては消防署に出向き消火訓練を受けてホームにて伝達研修を実施する等、全員で前向きな取り組みをしている。計画書作成においては、家族の意見等、反映したものとなっているが、担当者会議への家族の出席や表記の仕方等工夫、努力されることを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、主任にて自己評価の話し合いを行い、改善課題と共に取り組んでいる。しかし、全職員での話し合いや取り組みはまだ充分でない為、全職員が周知理解するよう話し合いの機会を設け取り組んでいくことで、ホームの強みややすばらしさが再認識できると思われる為、今後は全員での取り組みを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催している。市職員、区長や民生委員、老人クラブ会長、利用者や家族、職員等が参加している。ホームの報告や地域からの伝達事項が主な内容である。その地域からの情報を有効に活かし、地域の行事や地元の活動に参加し、ホームのあり方等、住民に周知してもらい、ホーム全体が地域の一員としての役割を果たしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議や面会時に職員が意見等を聴き取ることで、より情報収集し、ホーム全体で対応を行っている。本人らしく生活できることを願う家族が多く、その他の要望に対して本人の意向を確認しながら、できる限り在宅での生活に近い状況を保つ工夫をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の住民と挨拶をすることにより、全職員が地域で生活する者としての役割を担うという姿勢がある。積極的に地域の奉仕活動や親睦会等にも参加し、地域に溶け込み、地域住民とかけ離れることなく日常生活を送っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の思いを入れ込んだ「家庭的な雰囲気」全員明るく等、誰にでもわかりやすく馴染みやすい理念を作り上げている。また、地域の一員であることを職員と共に実感し生活の中で欠かせないものである挨拶を地域の方に積極的にしていこうとの思いも理念に取り込まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域に溶け込み笑顔で挨拶を行うことを管理者が提案し、職員もその思いを共有している。毎朝の朝礼時に唱和し介護を行う毎に理念の意味を確認している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	道路愛護やハエ・蚊の駆除消毒作業に参加したり、地域の夏祭りには利用者、その家族も参加し楽しんでいる。地域の親睦会や商工会にも加入し事業所全体の事を地域住民に知ってもらおうと努めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価のおおまかなことは職員は周知しているが、項目に関しての話し合いは管理者と主任にて行われており、職員全員での話し合い等はなされていない。		ホーム内の雰囲気は明るく管理者の人柄が窺え職員も利用者の生活をより良くしようと頑張っている姿が見られるが、自己評価及び外部評価の意義や理解に関しての話し合いは行われていない。今後は職員全員で取組まれることを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、出席者は区長、老人クラブ会長、小郡市介護保険課担当者、家族代表(3名)、職員(2名)等である。会議の内容はホームの報告や地域性のある事柄が話し合われている。		

グループホーム 風のふく丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小郡市担当者の元へ出向き、ホームの状況等の報告をしたり、地域包括支援センターとも連絡を取り合い、地域でのネットワーク作りを行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者等は外部の研修会に参加し、学ぶ機会があるが、職員全員の周知、理解は充分でない。利用者、家族へは入居時に必要に応じ説明は行っている。		研修会に参加し勉強する機会はあるが職員全員に伝達研修の機会が無いため、事業所全体で研修を強化されることを期待する。また、権利擁護等に関するパンフレット等をホーム内の目に付く場所に置かれると其々の理解が深まると思われる。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの通信を機会ある毎に発行し家族へ届け、利用者の暮らしぶりを知らせている。利用者の個々の状態は面会時や家族会で報告を行い、家族が遠方の場合には電話にて報告している。金銭に関しても毎月家族へ報告を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事、家族会、面会時等、その都度家族と会話する機会を設け意見交換を行っている。ホームの玄関には意見箱を設置し福岡県の苦情相談窓口の掲示もしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の個人的な状況を考慮し、長く働けるようにしている為、離職者は少ない。職員が代わる場合は法人内の異動を行いホームの業務がスムーズにできるようにしている。引継ぎは他の職員がフォローしており利用者へのダメージが無いようにしている。全職員が利用者の状態を把握する為、担当制はとっていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に当たっては特に条件は設けていない。職員の意向を尊重し休日を取りやすくし、職員もボランティア活動等を行っている。また、研修等受けられるようシフト調整している。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	接遇や人格を尊重すること、また、カンファレンスのあり方等を法人全体で研修を行い職員に対し教育を行っている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	福岡県が行っている実務研修、管理者研修等、職員の段階に応じ受けられる体制作りを行っている。また、協力病院の研修や医師会が行っている研修等積極的に参加している。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	法人内で研修や茶話会を2ヶ月に1度実施しており、職員の親睦を深めている。また、外部の研修は管理者が情報を提供し参加する機会を作っている。福岡県のグループホーム協議会へ職員も参加し業務に活かしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	家族から本人の状態等の聴き取りを行い、ホーム見学をしてもらい食事を一緒にしてもらっている。家族同伴の場合もあったり、何回でもホーム見学をしてもらい本人がホームに馴染めるように配慮している。ホームのほうからも入居希望者の元へ出向くこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の味付けや漬物の漬け方等、利用者から教わり職員と一緒に作業することで喜び、楽しみを共に味わっている。また、昔の唄を利用者から教わり一緒に歌い昔を懐かしみ利用者の人生の苦労や喜びを共に感じている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の話す内容や行動から意向を把握したり家族から本人の意向に関する情報を面会時に確認している。本人の特性を知り理解することで個別に対応している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族からの意見や本人の行動等を元に担当者会議を行い計画書を作成している。担当者会議への家族の出席は少ない。利用者への援助方法、方針等が利用者個別のものとなっておらず画一的なものになっている。</p>		<p>家族が面会に訪れた時や電話にて意向を確認しているが、職員のみ担当者会議となっている。計画書の援助方針等、利用者個々のものとなっていない為、担当者会議に家族の参加を呼びかけ細やかな情報を収集し、いろいろな意見を持ち寄った計画書とすることが望ましい。また、完成した計画には、確実に家族等の記名・捺印をもらうことが望ましい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月に1回は必ずカンファレンスを開き見直しを行っている。コミュニケーションやADLの確認表を元に状態の変化を把握し計画を作成している。家族はその都度閲覧できるようになっている</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	里帰りや総合病院への受診時に必要な場合に車椅子対応の自動車を家族に貸し出している。緊急時のショートステイを受け入れる体制をとっている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診は2週間に1回あり、利用者の状態の把握、確認を行っている。主治医への受診時は看護師が同行し状態を確認し職員、家族へ伝達等の連絡を行っている。かかりつけ医に関しては、家族の納得を得ており、内科はひとつの病院となっているが、内科以外は個別対応している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては全職員が方針を共有している。現在のところ家族の意向は、最期は病院で迎えたいとの希望が大多数である。入居時に指針を説明し家族と同意書を交わしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は事務所に保管され、記録に個人が解るような表現はしないよう配慮したり、個人記録は事務所から持ち出さないよう徹底されている。利用者の写真の使用等も本人、家族の了解を得ておりプライバシーの確保に配慮がなされている。利用者に対し心配り、気遣い等がみられ和やかな雰囲気ではあるが、排泄時の声かけや会話の内容が周りに聞こえていたり、食事の際、利用者の満腹度の確認が無く食べ物をお口へ運ぶことがあった。		利用者と職員のコミュニケーションが取れていて親しみを込めて会話している様子であるが、会話の内容や声かけ時の声の音量等配慮されることを希望する。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活のリズムを尊重し入居後も以前の生活リズムで暮らせるよう配慮している。朝食の時間やその他の時間の設定はしておらず本人のペースで一日を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、味付けや後片付け等、本人のできることを職員と一緒にしている。食事中は雑音等が無いよう配慮し、楽しく会話しながらゆっくりと食事をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴できるようにしているが、現在は一日おきに入浴する利用者が多い。時間帯はおおまかに午前中と午後帯に別れ、入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その日の天候や利用者の希望にて散歩のついでに買い物に行ったりドライブに行くことがある。日常生活の中の役割は洗濯物畳みやコーヒーカップの後片付け等があり、できることをしている。季節によっては農作物の収穫等も利用者と一緒にしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調をみながら職員が声をかけ散歩に行ったり買い物に行ったり等、その日によってそれぞれの外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はいつでも誰でも自由に出入りできるように玄関は開錠している。利用者が日の出と共に鍵を開け就寝前には鍵をかける役割を持っており、利用者も自宅のような感覚で生活している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	屋外に避難する避難訓練は年に1回実施し、シュミレーションによる夜間想定訓練も行っている。消防署に出向き消火訓練を受けたり、地元の消防団との連携も取れている。		

グループホーム 風のふく丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が立てた献立を参考に調理を行い栄養バランスを考慮している。水分補給は毎日食事ごと10時、15時に好みの飲み物を出し1日におおよそ1000cc摂取できるよう支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい玄関と利用者が集う食堂には南からの日差しが降り注ぎカーテン等で日光を調整して暖かな雰囲気である。トイレ等も気持ちよく使用できる工夫が施されている。壁面や食卓に花を飾っているが、春や夏を想わせるものであり季節感を感じることができない。また、食後の台所の音に配慮がなされていない。		玄関廻りや食堂等、適度な採光がありとても暖かで和やかさが感じられ家庭的な雰囲気の造りとなっているがあまり季節感を感じることが出来ない。壁面や食卓に季節感のあるものを飾ると今の季節を感じることができると思われる。台所での後片付けの音等も配慮されると利用者もよりゆっくり過ごすことができると思われる為、工夫を希望する。
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や小物、枕等さりげなく配置されており、利用者が不安を感じることなく過ごせる工夫がされている。		